

送 辞

日差しの中に春の気配が感じられ、冬を耐え抜いた木々の蕾が花開こうとする季節になりました。このような佳き日に新たな門出を迎えられる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

四年前、作新学院大学へ入学をした皆様はさまざまな希望を抱き、これからの大学生活に大きな夢を描かれていたことと思います。卒業を迎えられた今、その希望や夢はより一層現実へと近づいてきたのではないのでしょうか。多くの人と出会い、さまざまな経験をしてきた皆様は、私たち在校生にとって憧れの存在であり、その姿は私たちの目にととてもまぶしく映りました。このような素敵なお姿を見られることも今日で終わりかと思うと、大きな寂しさを覚えます。皆様にとって、この四年間はどのようなものだったのでしょうか。

さまざまな思いを胸に、はじまりの一步を踏み出した入学式。多くの友人や教職員との最初の出会いとなったことでしょう。大学生活にも慣れた二年目には、新型コロナウイルス感染症の流行。その一年は大学へ通うことも許されず、苦しい思いをされた方も多くいらっしゃるかと思います。大学が再開されてからも、同学年の友人や他学年の学生との交流の減少、授業形態の変化、実習の中止や延期など多くの制約の中での生活となりました。皆様にとって波乱に満ちた大学生活だったのではないかと思います。苦しいことや辛いことなどが多くあった反面、この状況だったからこそ、友人の大切や、困難や制限の中での可能性を模索する意味など、さまざまなことに気がつくことができたのではないのでしょうか。この四年間があればこそ、今の皆様がいらっしゃるのではないかと思います。

私たちは皆様からさまざまなものをいただきました。多くの経験を積み、多くのことを学んできた皆様の背中からは、私たちにはとても広く、たくましいものを感じられました。どのような状況の中でも、自らの夢にまっすぐに進む姿や努力を重ねる姿は私たち在校生に希望を抱かせ、大きな支えとなりました。皆様から学んだことは、私たちの夢に大きな恩恵をもたらすことでしょう。皆様がそうであったように、これからは私たちが後輩を導いていく存在となれるよう精進してまいります。

今、皆様は将来への希望を抱いて、新たな世界へと羽ばたこうとしています。その道は、まっすぐなものばかりではないでしょう。さまざまな分かれ道があり、時には行き止まりにぶつかることもあるかもしれません。前に進むことが難しくなった時は、この大学で過ごした四年間を、そして、皆様の背中を見て育った私たちがいるということを思い出してください。今日までの日々は、必ず皆様の支えとなるにちがいありません。

最後になりますが、本日卒業を迎えた皆様に、心よりお祝いと感謝を申し上げるとともに、今後における皆様の更なるご活躍とご多幸を祈念して、送辞の言葉とさせていただきます。



令和五年三月十九日
作新学院大学 人間文化学部
在校生代表 鈴木 海羽